

学ぶ楽しさを実感し、自ら学ぶ児童の育成

～言語力を高める指導法の工夫改善を目指して～

1 研究計画

(1) 課題設定理由

本校では、数年前から、コミュニケーション力を育成するために、自分の思いを言葉にして伝え合うための取組を続けてきた。昨年度までの取組で、発表したり書いたりして表現することには一定の成果が見られるようになった。また、昨年度は読みのアセスメントを実施し、一人一人の特性や個性に応じた支援の方法についての研究にも取り組んできた。しかし、自分の思いをより適切に表現するためには語彙力が十分とはいえないこと、書かれている文章が正しく読み取れない児童が多いことが課題となっている。

また、昨年度学力向上プロジェクト事業の対象校となり、全国学力学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の検査結果について達成度の検証や、質問紙調査の分析から、本校の児童は基礎的基本的な事項をその場で理解しても、定着するまでの反復学習が不十分であったり、文章を読んで意味することや伝えたいことを理解し、さらに思考・表現したりすることに課題がみられた。

そこで、本年度は、言語力の向上に重点を置いて研究を進めていきたいと考える。特に、確かな読みの力をつけることが必要であると思われる。さらに、自分の思いを豊かな語彙で表現できるようにさせたいと考える。

言語力とは、知識と経験、感性・情緒等を基盤として、自らの考えを深め、他者とのコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力を意味している。言語力は、国語科を中核として全教科で伸ばしていく力である。その中核となる国語科の指導に立ち返って、基礎・基本を明確にして指導していきたいと考える。昨年度も実施した読みのアセスメントを活用し、個別の支援の手立てについても工夫していきたい。

また、言語は学習を行うための手段でもあるので、言語力が高まることで学習への意欲も向上し、更に学力の向上につながっていくと考えて研究を進めていくものとする。

(2) 研究の仮説

- ・国語科の基礎・基本を明確に捉え、語彙力を高めるための指導法を工夫改善していくことで、確かな読みの力が身につく、言語力が育つのではないかと。
- ・どの子にも分かる授業を展開し、個に対応した支援をしていくことで、学ぶ楽しさを実感し自ら学ぶ意欲につながるのではないかと。

(3) めざす児童像

- ・確かな読みの力を身につけ、学ぶことの楽しさを感じている子
- ・語彙が豊かで、考えをわかりやすく伝え合える子

2 研究の内容（◎は本年度の重点）

(1) 研究授業・授業研究を通しての実践的な研究

◎国語科における各学年の基礎・基本の明確化

- ・ユニバーサルデザインのアイディアの共有化（わかりやすさの追究）
- ・視点児童と支援の手だての明確化

(2) 読みの力・語彙力を高める指導の工夫改善

◎読みのアセスメントの活用

- ・ノート、メモの取り方の指導
- ・音読・視写・言葉遊び等の工夫
- ・辞書の活用

(3) 学習意欲と効果を高めるための言語環境の整備

◎読書活動の推進

- ・掲示物の見直し

(4) 国語科以外での取組

◎家庭学習の充実

- ・各教科との分担と連携の整理（各教科における授業のねらいとふりかえり）
- ・表現活動の日常の取組（日記・読書記録・スピーチ等）

(5) 学力調査の分析

- ・全国学力学習状況調査の分析とパワーアップシートによる習得状況調査
- ・とちぎっ子学力調査の分析とパワーアップシートによる習得状況調査

◎各種調査問題の指導計画への位置づけ